



## 川島町に新たな文化財が増えました！

11月29日に国の有形文化財として三保谷地区の鈴木家住宅の主屋と土蔵が登録されました。また、2月22日には町の指定文化財として3つの民俗団体を指定しました。今後も、文化財が長く受け継がれていくよう、大切にしていきたいと思います。



鈴木家住宅 主屋・土蔵 【国登録有形文化財】

江戸中期の建築とされる主屋と、明治10年頃に建てられたとされる土蔵。主屋、土蔵は、外観や意匠に建築当時の建築様式地方色を表す特徴が見られ、当地の近世上層農家の好例と言えることから、「国土の歴史的景観に寄与しているもの」に該当するとして、登録されました。



角泉囃子 (団体名:角泉囃子連) 【町指定文化財】

角泉囃子は、山王流神田囃子と言われ、かつて、城中で奉奏された囃子です。優雅かつ静かであるのがこの囃子の特徴。江戸城を中心に城下に伝わる数少ない流派の一つとされており、明治初期に旧大宮市の木下地区から伝えられたと言われています。



下廓囃子 (団体名:下廓囃子連) 【町指定文化財】

下廓囃子は、角泉と同様、旧大宮市の木下地区より明治時代ごろ伝えられたと言われています。通常の囃子は、大太鼓・笛・鉦が各1つ、小太鼓が2つですが下廓囃子連は鉦を2つ用いています。



飯島囃子 (団体名:飯島囃子連) 【町指定文化財】

飯島囃子連は、江戸後期に吉見町の飯島新田から伝わったとされています。五穀豊穡や、無病息災、交通安全を願って演奏しています。また、戦前までは神楽も行われ、現在でも道具が残っています。